

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校)

目指す学校像	地域産業の発展に寄与できる、心豊かな技術者の育成
--------	--------------------------

重点目標	1 生徒の実態に対応した授業の工夫・改善を進め、中退者を減少させる。 2 充実した学校生活と進路実現のために、生徒指導及び進路指導の充実を図る。 3 開かれた学校づくりを目指し、地域との連携を深めると共に学校情報を積極的に発信する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒が入学してくる中で、生徒個々の適性に合った指導をする必要がある。</li> <li>中途退学者の中には、将来の目標、目的を持たない生徒が多い。このような生徒の学習意欲を向上させ、学習内容の理解を深めさせるためには、教員がICT等を活用した授業の工夫、改善に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の状況を把握し、支援が必要な生徒に対する指導をSC等と協力して組織的に実践し、中退者数を減少できたか。</li> <li>生徒個々の実態に即した教科指導を実践し、授業の理解度を高め、欠点保有者を減少できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の状況を細かく把握し、生徒個々に合った指導方法を検討する。</li> <li>②特別な支援を必要とする生徒に係る研修を通して、多様化する生徒に対する指導力を高める。</li> <li>③ICT等を活用した授業の工夫・改善に努める。</li> <li>④評価方法の研修および見直しを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学期の欠点保有者が減少したか。</li> <li>②学習アンケートから学習理解度、満足度が前年度比10%以上向上したか。</li> <li>③前年度より中途退学者が減少したか。</li> </ul>		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつや基本的な生活習慣を身につけてきた生徒が増えてきているが、遅刻者がまだ見られる。</li> <li>「地学地就」の理念に基づき地域と連携して自己の将来像を具体的に抱かせることにより自己実現を図る進路指導を継続する。また、他の地域ともいかに連携していくかが今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校活動に取り組む意欲が育成され、生徒指導件数、遅刻者数の減少や部活動加入率が向上したか。</li> <li>様々な地域と連携した活動や進路行事を通して、生徒自ら自己実現を考える機会が与えられ、始動を早くし、自分の希望する進路決定が出来たか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校と家庭が連携した登校指導などの取り組みを通し、生活習慣の改善を図る。</li> <li>②生徒会やH R活動を通して、部活動加入を促し、部活動の活性化を図る。</li> <li>③地域企業によるインターンシップや彩の国工場魅力発信事業等を通して各種産業への関心を高める。</li> <li>④各種進路指導行事を通して、早い段階から進路選択の自覚を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①遅刻者が前年度比20%以上減少したか。</li> <li>②部活動に臨む姿勢が良くなったか。また、年間を通して部活動の加入率が50%以上になったか。</li> <li>③地域企業との連携を通して、地元及び隣接する地域への就職者数が増加したか。</li> <li>④各学年に応じた進路ガイダンスや高校生自立支援事業の活用により、生徒自らの進路に具体的なイメージを持ち、進路未定者数が0名になったか。</li> </ul>		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座等の多種多様な取り組みを通じて、地域と連携した開かれた学校作りを継続しており、地域に根ざした専門高校としての役割を果たしている。</li> <li>HP等によるタイムリーな情報発信が出来ており、工業教育に興味・関心のある中学生には情報が届いている。ただし、中学校の教員に工業高校の魅力をどう伝えるかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の企業、自治会、小中学校等との積極的な交流を進め、積極的に参加することが出来たか。</li> <li>地域と連携した取り組みを様々な形で情報発信し、本校のPRが出来たか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域連携活動を通して、地域からの信頼を高める。</li> <li>②地域交流事業を通して、小中学生に工業技術に対する興味、関心を高める。</li> <li>③HPや学校説明会等により学校の情報を発信することにより、生徒、保護者、教員に工業高校を知ってもらった。</li> <li>④体験入学等を通して、工業教育に興味、関心の高い入学志願者を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域との連携活動に生徒が主体的に参加し、意欲的に取り組めたか。</li> <li>②地域交流事業の参加者数が、前年度以上に増加したか。</li> <li>③学校説明会の参加者数が前年度比10%以上増加したか。</li> <li>④入学志願者数が各科とも募集定員を超えたか。</li> </ul>		

学校関係者評価
実施日 平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等